

常総の水害被災者の支援活動

たすけあいセンター「JUNTOS」活動レポート **第2弾**



多くのご支援、ありがとうございます



たすけあいセンター「JUNTOS」(運営:認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons)

〒303-0005 茨城県常総市水海道森下町 4346 の3番地 エルバ水海道

☎ : 0297-44-4281

FAX : 0297-44-4291

eメール: info@npocommons.org

<https://www.facebook.com/JUNTOScommons>

2016年1月発行

水害から4ヶ月。厳しい現実の中で、参加と地域再生に挑む

水害発生から4ヶ月が経過した常総市の状況と commons の活動報告です。

●住宅修復の遅れ

毎日、家と事務所のある水海道森下町周辺を歩いていると、家による違いが目につきます。すっかり元に戻った家もあれば、1階に毎日修理業者が入り、床や壁を剥がしたもののや断熱材が家の周りに置かれている家もあります。1階のものを出した後、人が戻ってきていない家もあります。高齢者の単身世帯では、修理を諦め、空き家になっているところが少なくありません。アパートも1階部分を修復し、住民が入ったところもあります。多くは床や畳を上げたところで工事が止まったままになっています。これではアパートにいた人は帰って来られません。鬼怒川の土手を歩いて、散歩する人が減り、人が減っていると感じます。

●進む住宅の解体と人口流出

新八軒堀川に近く、浸水被害が特に大きかった橋本町などでは住宅の解体が続き、空き地が増えています。こうした土地に家を再建できるかどうか、また水が来るかもしれないと考え若い世代ほど市外に家を建てることを考える人が多いようです。住宅解体が進む背景に、一つは修理コストが今回の支援金や義援金では賄えないことがあります。半壊世帯で25万円の支援金や同額の義援金が受けられるようにはなりませんが、これだけでは到底足りません。commons が学習支援の拠点として借りた空き家の修復費用を業者に見積もってもらったところ、壁を剥がさない工事でも500万円を超えました。実際には床下や壁の内側のカビがひどく、全て外してカビを取る作業を連日行っています。この状況だと再建を諦めたくなくなります。「家を残してまちで人が集える場として再生したい」との願いがあればこそ、ボランティアの方が取り組んでくれています。

●外国人の流出も進む

常総市は外国人人口が多いことが特徴ですが、アパート修復が進まないことから市外への人口流出が進んでいます。お店を再建できた人もいれば、北水海道駅前のブラジルのレストランには「16年間有難うございました」との貼紙。オーナーから、「日本に来て中学校を卒業後、工場働いてお金をつくり、最近駅前に新たな店を構えた。もっと日本人にも来て欲しい」と7月に話を聞いただけに、本当に残念です。ネットで被災した写真などを見て、「水海道はもう終わりだ」と思っている外国人に、ブラジルの店の復旧状況を1軒ずつ紹介している仲間もいます。人口流出を防ぐには、住まいと仕事を作ること、正しい状況の発信が必要です。

●地元の人々の活動を増やすために

車がない人の通院や通学などを支えるための「JUNTOS」の移動支援は、県外からのボランティアや福祉施設関係者の協力で運営してきましたが、地元のボランティアに移行していくため、12月23日にはボランティア送迎に関する講習会を無料で開催しました。二次避難所で暮らす人も含め、20名の参加がありました。サロンも、東京から来て行っていたサロンに地元のボランティアが関わるようになりました。ただ、まだまだこうした活動を担う人は足りません。

1月9日に、今後も常総市の復興復興に関わる団体の情報交換会を開催したところ、23団体の参加があり、今後どのように連携していくか話し合うことができました。

●これから何ができるか、皆で考える

11月から年末にかけて、これまで常総に長く入って活動してくださった市外の支援団体の多くが活動を終えて帰られました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。しかしこれからは地域の人たちでできることを考え、行動していく必要があります。そこでいくつかのテーマで集会を開いてきました。11月29日に開催した井戸端会議では、阪神大震災後に市民による多言語のラジオ放送を立ち上げた吉富さんを迎え、ラジオは住民が自分たちの想いを発し、住民がつながるための道具だと教わりました。常総市の災害FM放送は11月で終わってしまいましたが、これから市民リポーターを募り、各地の集まりの様子など、様々な人の暮らしの状況、想いが伝わる手作りの

番組を作り、インターネット・ラジオなどで流すよう取り組みます。

12月16日には、福祉に関して3つのテーマを取り上げました。一つ目は、避難所を出た後の高齢者などの見守りについて。11月末に多くの避難所が閉鎖され、約200名の方の約半数は、二次避難所として市が借り上げた旅館やホテルに移りました。今までの避難所と異なり個室に移ると外から見えにくくなり会話の機会も減ります。つくば市の公務員住宅に移られた約100世帯も慣れない土地で情報が届きにくく孤立しがちです。こうした方々を福祉医療関係者が連携してどう見守り新たなコミュニティづくりを支援できるか話し合いました。

2つ目は、commons が今年度立ち上げたグジョブセンターの報告。これは引きこもっていた青年の就労支援をする事業で、実祭に常総市で青年が活動することで大きな進歩があり、被災地で若者が活動する機会を作ることの有効性が話されました。

3つ目は、元の家やアパートに住めなくなった高齢者などが、住んでいた地域を離れることなく暮らせるようにするための福祉長屋の可能性についてです。阪神大震災の後、仮設住宅にいた高齢者の孤立を防ぐために作られたグループハウスについて、専門家を招いてその可能性について聞きました。水海道にある既存の空き家と国の支援制度も活用すれば、実現可能なことが見えてきました。現在、最初のモデルになるハウスづくりに取り組んでいます。

●温度差、心の壁を取り除くために

今回の水害では、人々の間で様々な差を生みました。被災の差は支援金額の差を生み、経済力があるかどうか、保険に入っていたかどうかで、家を再建できるかどうか変わってきます。こうしたことから、被害の状況について市民同士でも話題ににくい状況があります。その結果、まだ大変な状況にある人がいてもそのことが伝わりにくく、もう元の生活に戻ったと感じている人と、全く先が見えない人との温度差が広がっています。被災地にいる人が一番辛いのは「被災による心の傷」がわかってもらえないこと、「忘れられている」と感じることです。

少しでも気持ちが一緒になれる方法はないか。そこで考えたのが「ぬくもりのパトン」プロジェクトです。最初はとにかく風が入り、暖房器具が使えない家は寒いだろうからと、電気カーペットや電気毛布をカンパで買って届けることを企画しました。これを配るだけでなく、支援する人の気持ちが入った毛布を受け取った人からは、メッセージを寄せてもらうことにしました。参加が大事だと思ったからです。災害からどこでどのように過ごしてこられたか、生活の何が変わり、何に困っているか、今回気づいたことや今後のまちや暮らしの再建への想いを、世帯ごとに話し合せて書いてもらい、そのメッセージを本にしたり、ラジオで紹介したりしていきます。既に80世帯近くから様々な声が寄せられています。

●復興計画に市民の声を反映させたい

11月から常総市の復興ビジョンを話し合う会議が開かれ、1月からは復興計画の策定会議が開かれます。短期間でわずかな回数の会議で計画がつけられる見込みですが、そこにできるだけ市民の声を反映させ、具体的に何を取り組むかが明確になるように働きかけていくことが重要です。「これならば家を建てても大丈夫」と思えるような災害に強いまちづくり、まちから出ざるをえなかった人が戻って来られるような住宅づくり、孤立を防ぐコミュニティづくり、農業や商業の再生、文化的多様性を生かした新たな仕事づくりなど、市民がしっかり議論に参加し、官民協働で新たな事業を作り出していきたい。その議論と活動の積み重ねが地域の再生につながると信じて活動しています。

様々な困難はありますが、人々が何に困っているか、何ができるかを見えるようにし、知恵、寄付、ボランティアを結集し、スタッフと共に粘り強く地域再生に取り組んでいきますので、引き続きご支援くださいますようお願いいたします。

2015年1月17日
認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons
代表理事 横田 能洋

たすけあいセンター「JUNTOS」は、被災された方の生活を 支え、市民同士のたすけあいによる生活復興を進めています



認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コムズ
代表理事 横田 能洋

コムズは、社会のために何かしたい人、NPO という道具を活かしたい人を応援することで、組織の壁・心の壁を越えて、人がつながり共に行動する市民社会の実現をミッションとしています。これは常総で被災された方を支援する活動でも変わりません。

外国人児童生徒の学習支援に取り組んでいた事務所が完全に水没し、機能が停止しました。大事なものを失いましたが、全国から駆けつけてくれた多くの市民や団体の協力により、様々な活動に取り組んでいます。本当にありがたいことです。

サロン（お茶会）などの現場では、被災された方同士が必要な物資や資源を融通しあい「たすけあい」が生まれつつあります。失ったものは本当に大きいのですが、新しく豊かな地域コミュニティが生まれる可能性も感じています。

常総のまちの復興はまだまだこれから。やるべきことは本当にたくさんあります。必要最低限なくらしの復興から、生活全般を支える復興へ。それには行政だけではなく、多くの市民や団体の力も借りながら、私たち市民同士のたすけあいによる生活復興を進める必要があります。今こそ「juntos」（ポルトガル語で「一緒に」の意味）の精神が求められています。

いつか、あの災害がきっかけで常総が以前よりももっと暖かく、くらしやすいまちになった、と言われるように。みんなで手を携えて取り組んでいきましょう。

活動の移り変わり

活動	内容	9月	10月	11月	12月	1月～
救援物資の配布、片づけ資機材の貸出やボランティア・コーディネート	全国から届いた救援物資をセットにして、被災された方に配布しています。また片づけに必要な資機材や軽トラックの貸出、手が足りない時のボランティア支援とそのコーディネートも初期に行いました。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
『JUNTOS 通信』の発行	被災者に必要な情報を届けるかわら版「JUNTOS! 通信」を発行。発直後はほぼ毎日、発行していました。5か国語に多言語対応しています。 バックナンバー： < www.npocommons.org/topics/juntos-all.html >	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
「常総市水害対応 NPO 連絡会議」の開催	コムズが呼びかけ人となり、当初は毎晩情報共有や意見交換を行っていました。これまで70以上の団体が参加しました。片づけ、避難所、炊き出しなどの活動、移動支援、行政・制度など各グループの情報共有を行っています。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
Radio Juntos の番組づくり	市の災害ラジオと連携し、多言語で生活情報をお届けする番組を作成しました。現在はラヂオつくばと連携して継続しています。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
常総市への政策提言	NPO 連絡会議で出された意見やニーズ調査から明らかになった状況をまとめ、行政と民間で協働で支援に取り組もうと提言書を提出しました。それを受けて、市長との情報交換や、市からの提言書への回答も得ました。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
被災者支援制度の説明会の開催や相談対応	専門家を交え、「災害救助法」や「被災者生活再建支援法」など制度を学び、住民同士意見交換できる場を設けています。また、通訳を交え外国の方の生活相談にも対応しています。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
移動支援活動	全国の移動支援団体と連携し、通学・通院などを支援しています。一日約10回の利用があります。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
サロン活動	サロン（お茶会）など、住民同士が交流、意見交換できる機会をつくりながら、住民がまちづくりの主役となるようにしています。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
被災された方のニーズ調査	被災した方、特に在宅避難されている方のお困りごとを聞き取り調査を行い、集計し、支援の具体化や行政への情報提供・提案につなげています。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
カーシェアリング	日本カーシェアリング協会と連携し、住民に対するカーシェアを行っています。	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●

JUNTOSの現在の活動

多くの市民や組織のご協力をいただきながら、以下の活動に取り組んでいます。できる範囲で構いませんので、ぜひ一緒に活動しましょう。

活動分野	内容	連携組織	ボランティアで協力を求めたいこと
<p>J (情報)</p>	 <p>被災者に必要な情報を届けるかわら版『JUNTOS!通信』の発行や、ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語など多言語への翻訳、また「ぬくもりのパトン」プロジェクト（5ページ参照）で得た、被災された方の声をインターネットやラジオ、冊子などで発信しています。</p> <p>11月29日には、JUNTOS 井戸端会議「住民同士が想いを共有し、つながるためにできること」を開催し、阪神淡路大震災後、全国初の市民ラジオ放送局「FM わいわい」設立した吉富氏を常総にお招きし、住民同士が想いを共有し、つながるためにできるメディアづくりを住民のみなさんとともに考えました。</p>	<p>ラチオつくば、つくば市国際交流協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人々の声や生活に必要な情報の収集と編集 ● 『JUNTOS通信』の配布、拡散
<p>U (運転)</p>	 <p>浸水で車を失った人もとても多いので、移動サービスや、複数の人で車を共有するカーシェアを導入し、普及しています。移動サービスでは、市の乗り合いタクシーでは対応できないような、子どもの学校への送迎、市外への通院、障がいがある方の送迎に日々ボランティアが交代であたっています。複数の人で車を使うカーシェアリングの普及も行き、これまで4組が利用しています。</p> <p>12月23日には、茨城福祉移動サービス団体連絡会と連携し、送迎ボランティア講習会を開催、21名が受講しました。一時避難先から子どもを毎日学校に送迎している世帯が、約200世帯もあります。こうした方々のサポートができるよう送迎ボランティアをさらに増やす必要があります。</p>	<p>認定NPO法人難民を助ける会、NPO法人移動支援Rera、一般社団法人日本カーシェアリング協会、茨城福祉移動サービス団体連絡会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転ボランティア
<p>N (直し隊)</p>	 <p>今回の水害では約5,000世帯が床上浸水し、住宅の修復とそれに伴う建築廃材の処分が大きな課題になりました。修理の依頼が多過ぎて業者が見つからない、工事に時間がかかるという問題、500万円を超える修復費用を払えないという経済的問題、アパートの修復が進みにくいなど課題が山積しています。途中まで修理や掃除をしたものの、カビや匂いが収まらず家を解体するところも増えています。</p> <p>こうした家を少しでも再生するため、空き家を借り、ボランティアの手で床や壁を剥がし、カビを取り除きながら家を再生する活動を続けています。こうして空き家を再生することで、地域で人が集まれる場を増やすことに取り組んでいます。</p>	<p>NPO法人ふれあい坂下、グッジョブセンターみつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日曜大工、リフォームの手伝い

活動分野	内容	連携組織	ボランティアで協力を求めたいこと
<p>T (届け隊)</p>	 <p>全国から届けられた救援物資や寄付を元に購入した自転車などをセットにして、被災された方に電気毛布とともに配布しています。「ぬくもりのバトン」プロジェクト(5ページ参照)では、被災された方が寒い冬を乗り切れるよう、寄付を募って電気毛布を配っています。毛布を受け取った方は、生活がどのように変わったか、嬉しかったことや辛かったことは何かなどのメッセージを書き、想いや経験を伝えます。物資を届けるだけではなく、ご提供された方の想いを伝えつつ、孤立しがちな方々への見守り活動のきっかけとして活かしています。連日多くのボランティアが、物資を届けながらの訪問活動を行い、見守りが必要な世帯には継続した訪問も行っています。</p>	<p>ユニベルシタスつくば、NPO 法人スマイル・ステーション、栃木県若年者支援機構、SeRV</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援物資の仕分け ● 救援物資をお届けするボランティア
<p>O (お話し隊)</p>	 <p>サロン活動(お茶会)を通じて、食事などの提供をしながら、住民同士が話し合う場づくりを行っています。JUNTOS だけではなく、市外から支援に来られる団体のコーディネートも行っています。また、常総から離れた、つくばの公務員住宅に移った方々でのコミュニティづくりを進めるため、12月26日には茶話会を実施しました。サロンでは、弁護士や、税理士など専門家にも参加してもらい、法的なトラブル、各種手続き、税金関係の悩みにも気軽に相談できる場を様々な団体の協力によりつくっています。</p>	<p>一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター、東京災害ボランティアネットワーク、茨城県生活協同組合連合会、連合茨城</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 傾聴のボランティア ● サロン運営ボランティア
<p>S (住み隊)</p>	 <p>フォーラム「常総市の水害がもたらした生活困窮と、くらしと住まいの再生を考える」を12月16日に開催し、約70名の参加者とともに、阪神淡路大震災をきっかけに生まれた「福祉長屋」の事例を伺いながら、孤立防止と住まいの確保に関して一緒に考えました。人口流出と空き家増大を防ぐための方策として既存の民家、アパートなどをグループハウスに改装する実験に取り組んでいます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティづくりのコーディネーター



その他 学習支援

コモンスが常総市で5年前から取り組んできた外国人児童生徒の学習支援について、1月18日に再開しました。また、石岡市のNPO法人 茨城教育ネットワークの協力により、高校受験間近の中学生を対象とした無料の学習支援も行われています。

「ぬくもりのバトン」プロジェクトに寄せられた、常総市民の声

街の風景は水害前に戻ったように見えますが、工事中の自宅と一時避難先を往復している世帯、元の住まいや避難所からまた慣れないところに移られた世帯にとって、避難生活はまだ続いています。常総市民のくらしの再生には、市民同士が互いの状況や想いを共有すること、そして住民一人一人ができることで参加し、つながることが大切だと思います。

そこで、被災された方が寒い冬を乗り切れるよう、寄付を募って電気毛布を配っています。毛布を受け取った方は、生活がどのように変わったか、嬉しかったことや辛かったことは

何かなどのメッセージを書き、想いや経験を伝えます。さらに、ボランティアが被災した住民に毛布を配りながら声をかけ、寄せられたメッセージや声を整理して編集し、ウェブでの発信やラジオ番組、冊子などにまとめ、今後の住民同士のつながりづくりなどに役立てます。

1月28日現在、136世帯に毛布を届け、76世帯からお声をいただきましたので、一部をご紹介します。

ご関心がある方は、ご寄付やボランティアでぜひご参加ください。(詳細: www.npocommons.org/topics/warmth.html)

① 9月10日から今まで、どのように過ごしてきましたか？

「数日、水に浸かった品々、家、何もかもダメ、涙さえ出なかった。9月10日より避難所生活。工事中の自宅と避難先を往復しているだけ。」

「9月10日につくばの避難所へ行き、その後親せき宅へお世話になり、長引くことが分かったので、両親は壊れたままの家で、子どもと私たちはとりあえず小さな部屋を借りました。今現在もその状態です。」

② 生活はどのように変わりましたか？

「家で毎日忙しく、3か月たったのに何も変わっていない。」
「家族がバラバラになり、何もかもなくし、一人になり、話し相手もなく、寂しい夜を過ごすことになりました。何となく不安です。」

「人間的に皆様や自分も暗い毎日の暮らし送る。顔で笑って心で泣く人が多いことがよくわかりました。」

③ うれしかったこと、辛かったことは何ですか？

「体育館では被災者どうしのあいさつ、助け合いなどこれまでの人生で最も心に残るいい体験をしました。又辛かったことを言えば、一人一人の気持ちを知り、その人に合わせないと生活ができないことです。」

④ 今回学んだことや教訓は何ですか？

「人に助けられる有難さと難しさ。人様のご厚情が身に染みしました。今後、反対の立場になったときは進んで、率先して、力を貸してあげたいです。」

「いつもの備えをしておくこと。家族の絆が大切。」

⑤ 今後のことで考えていること、悩んでいることは何ですか？

「老後のためにとっておいたお金は、全部家の修理にかかってしまいました。この先のことを考えると、どうしていいのかわかりません。」

「今回リフォームしたが、高台に家を買う人もいる。このまま住んでいて大丈夫だろうか。」

「大雨と聞くとすごく不安になる。」

⑥ まちやくらしの再生、復興で必要なことは何だと思えますか？

「住民同士のコミュニケーションがとれるようになればいいとおもいます。」

「若い人たちが常総市から他の市町に出ていくのを聞くと、とてもさびしいです。」

⑦ 行政に望むことは何ですか？

「私達は今まで決まった税金をはらうため、一生けんめい働いてきました。これからは安心して生きていけるようにしてほしいです。」

「また洪水がおきないようにしてほしい。」

⑧ 市外の人たちへのメッセージをお願いします。

「顔で笑って、心で泣く。常総市の皆さんの気持ちです。」
「必要なもの、必要な作業を、きちんとみんなの声をきいて行動してほしい。」

「あすなろへ 13日に避難(手をケガしたので)。家族と小絹へ行くが骨折してしまい、家族にすまない気持ち。病院へはボランティアに送迎してもらった。自宅は1月中旬から大工が入る。」

「避難所と自宅を雨の日以外、毎日毎日往復して家の中の片付けと家のまわりのガレキなどの片付けをしていました。私、何をしているんだろうとふと手を止め、悲しい毎日を送ってきました。東北の被災者の気持ちが少しわかったような気がする。」

「一変の一語に尽きます。」

「かわいがっていた犬が死んでしまい、何でと思うことが多くあります。何で私だったんだろうとか、何が悪かったのだろうと思う事だらけです。」

「近所のつながり、人とのつながりのありがたさの反面、冷たさも。市役所でも事務的だし、職場でも他人事、わからない人にはわからないのだろう。」

「ボランティアさんの温かい接し方。非常に嬉しかった。」
「一人身の中、避難所で知り合い、家庭的、家族的な出会いがうれしかった。」

「人間らしい心。思い遣りです。一番大事なことは。」

「洪水が起きそうになったときは油断しない。早めに災害に備えて準備する。」

「県営住宅も2年しかいられないので、市営住宅に入りたいのですが、入れるかどうか心配です。」

「帰ってからのこと。家がまわりにポツ・ポツとなった。こわしてしまっ。これがこわい。ひとりぼっちになる。買物が遠い。」

「再生には、やはり改修するための資金。被害の程度の差があるが、被害の大きい家では再生するため常総市外に転移しないような対策を考えてほしい。」

「人が集まるような大きな事業を誘致して活気ある町にすることで復興につながると思っています。常総市に住んでいるメリットを感じたいです。」

「いろいろな情報は被災地全体に届くように。」

「今後同じような事があった場合、避難指示や支援制度を私たちに早く正確に伝える方法を考えてもらいたい。宣伝カーを出すとか、町内会の中で、連絡する人を数人決めておくとか。」

「全国からのボランティアさんに手伝っていただいて大変助かりました。有難うございました。」

「災害にあわれなかった人達から他人事と思ってほしくないです。」

多くの方々にご支援いただきました

この間、本当に多くの市民、組織に支えられて活動することができました。ありがとうございました。個人名は割愛させていただきますが、ご協力いただきました団体名を掲載します。

職員を派遣していただいた団体の皆様

認定 NPO 法人日本 NPO センター
認定 NPO 法人さいたま NPO センター
認定 NPO 法人市民活動センター神戸
認定 NPO 法人市民セクターよこはま
認定 NPO 法人浜松 NPO ネットワークセンター
認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会
NPO 法人いわて連携復興センター
NPO 法人岡山 NPO センター
NPO 法人くびき野 NPO サポートセンター
NPO 法人市民社会創造ファンド
NPO 法人しらかわ市民活動支援会
NPO 法人ひろしま NPO センター
NPO 法人杜の伝言板ゆるる
NPO 法人山形の公益活動を応援する会・アミル
NPO 法人わかやま NPO センター
一般社団法人栃木県若年者支援機構
一般社団法人山形県被災者連携支援センター
公益財団法人とっとり県民活動活性化センター
社会福祉法人大阪ボランティア協会
復興ボランティア支援センターやまがた
西東京市市民協働推進センター「ゆめこらぼ」
逗子文化プラザ市民交流センター

非営利団体の皆様

認定 NPO 法人幼い難民を考える会
認定 NPO 法人災害人道医療支援会
認定 NPO 法人市民のための健康・医療ネットワーク
認定 NPO 法人市民福祉団体全国協議会
認定 NPO 法人都市生活コミュニティセンター
認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク
認定 NPO 法人難民支援協会
認定 NPO 法人難民を助ける会
認定 NPO 法人水戸こどもの劇場
認定 NPO 法人メドゥッサン・デュ・モンドジャポン
認定 NPO 法人リヴォルヴ学校教育研究所
認定 NPO 法人レスキューストックヤード
NPO 法人 ADRA Japan
NPO 法人 Hands On Tokyo
NPO 法人 M・I・T・O21
NPO 法人赤目の里山を育てる会
NPO 法人旭川 NPO サポートセンター
NPO 法人あしほ
NPO 法人あすかユーアイネット
NPO 法人あした塾
NPO 法人アニマルセラピー協会
NPO 法人いきいき

NPO 法人育泳会
NPO 法人移動サポートひらけごま
NPO 法人移動支援 Rera
NPO 法人茨城教育ネットワーク
NPO 法人茨城県精神障害地域ケア研究会
NPO 法人ウィラブ北茨城
NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
NPO 法人エイエスピー
NPO 法人エコ・コミュニケーションセンター
NPO 法人エンハートメント
NPO 法人おおぞら
NPO 法人おおむた・わいわいまちづくりネットワーク
NPO 法人おでかけサービス杉並
NPO 法人神奈川災害ボランティアネットワーク
NPO 法人くらし協同館なかよし
NPO 法人国際ボランティア学生協会
NPO 法人コラボりん湖西
NPO 法人金田台の生態系を守る会
NPO 法人災害ボランティアネット
NPO 法人さくらネット
NPO 法人サポートつくし
NPO 法人敷島の会
NPO 法人静岡県ボランティア協会
NPO 法人市民活動サポートセンターとやま
NPO 法人市民事務局かわにし
NPO 法人湘南市民メディアネットワーク
NPO 法人スマイル・ステーション
NPO 法人生活支援ネットワーク こもれび
NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター
NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会
NPO 法人多文化共生リソースセンター東海
NPO 法人地域福祉サポートちた
NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
NPO 法人つくばアーバンガーデニング
NPO 法人どんぐりの家
NPO 法人勿来まちづくりサポートセンター
NPO 法人並木会
NPO 法人日常生活支援ネットワーク
NPO 法人日本ファシリテーション協会
NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会
NPO 法人認知症介護家族の会うさぎ
NPO 法人はつらつ会
NPO 法人花*花
NPO 法人ハンディキャップゆづり葉
NPO 法人ひたち親子の広場
NPO 法人ひまわり
NPO 法人フードバンク茨城
NPO 法人福祉の会ねこのて

NPO 法人ふくろう
NPO 法人フュージョン社会力創造パートナーズ
NPO 法人ふれあい坂下
NPO 法人ベル・サポート
NPO 法人まちづくり市民会議
NPO 法人まちづくりネット東近江
NPO 法人まつど NPO 協議会
NPO 法人みえ防災市民会議
NPO 法人みんなの元気塾 さわやか近畿ブロック
NPO 法人わたつみ友の会

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
公益社団法人青年海外協力協会
公益社団法人中越防災安全推進機構
一般社団法人 OPEN JAPAN
一般社団法人 RQ 災害教育センター
一般社団法人石岡青年会議所
一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会
一般社団法人茨城県ソーシャルワーカー協会
一般社団法人クラッシュジャパン
一般社団法人グローバル人財サポート浜松
一般社団法人生命保険協会
一般社団法人全国コミュニティ財団協会
一般社団法人震災復興支縁協会つながり
一般社団法人チーム王冠
一般社団法人日本カーシェアリング協会
一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター
一般社団法人広島たすけ隊
一般社団法人プレーワーカーズ
一般社団法人ボランティアサポート
一般社団法人まなびの森
一般社団法人水海道青年会議所

DRT-JAPAN
Emotional Beat 姫ラジ
NGO 災害救援チームフェニックス救援隊
NPO 会計支援センター
NPO 環~WA
SVTS【風組】 関東支部：風組本陣愛・知・人
あこがれ先生プロジェクト実行委員会
穴水町ボランティア連絡協議会
我孫子市国際交流協会 日本語イブニングクラス
石巻ボランティア まなみ組
いたばし総合ボランティアセンター
茨城福祉移動サービス団体連絡会
ユニベルシタスつくば（つくば市民大学を運営）
大熊町「積小為大の会」

表町町会
柏自主夜間中学有志一同
神栖市国際交流協会
川口市芝樋ノ爪町会
感環自然村
関西 STS 連絡会
神崎組寺族会
希望のつばさプロジェクト
グッジョブセンターみと
グリーンアンブレラ
グループハウス尼崎
港北区災害ボランティア連絡会
国際救急法研究所
コミサボひろしま
コミュニティ・カフェ EMANON
災害 NGO 結
災害ボランティア活動支援プロジェクト会
ト会議（支援P）
災害ボランティアコーディネーターなごや
茶道松尾流南山会
里山資本主義フォーラム実行委員会
静岡県学生ボランティア団体「うちっち」
情報支援レスキュー隊 IT Disaster Assistance
震災がつなぐ全国ネットワーク
青年海外協力隊茨城県OV会
そなえざあしぞ〜か
大好き いばらき 県民会議
第4回デコッパ！卓球選手権参加者一同
宝塚音楽回廊実行委員会
地域のパートナーシップを拓くSRネットワーク茨城
千葉HL有志
チャリティ NPO マイナンバー講座@地域資源長屋なかむら 参加者一同
つくいち実行委員会
つくば子ども劇場
東京災害ボランティアネットワーク
とちぎ暮らし応援会
栃木県国際サポートセンター
取手虫輪実行委員会
勿来ひと・まち未来会議
名古屋みなみ災害ボランティアネットワーク
なにわ語り部の会有志一同
西東京レスキューバード
日経BIZ アカデミーソーシャルデザイン集中講座2015 受講者有志及び立教大学21世紀社会デザイン研究科教員・職員有志
日本語学校つくばスマイル
梅林学区自主防災会連合会
八豊祭実行委員会
被災地 NGO 協働センター
「被災地における障がい者、移動制約者への移動送迎支援活動基金」運営委員会（略称：ももくり送迎基金）
ピノキオクラフトクラブ
ふうあいねっと
ふらっとステーション・とつか
ママライフエキスポ

みえ市民活動ボランティアセンター
吉野サポートセンター
楽々会
公益財団法人茨城県国際交流協会
公益財団法人トヨタ財団
公益財団法人ちばのWA 地域づくり基金
公益財団法人日本財団
公益財団法人ひょうごコミュニティ財団
一般財団法人ダイバーシティ研究所
一般財団法人つくば市国際交流協会
一般財団法人日伯経済文化協会
一般財団法人日本国際飢餓対策機構

社会福祉法人全国社会福祉協議会
社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
社会福祉法人東京都社会福祉協議会
社会福祉法人常総市社会福祉協議会
社会福祉法人前橋市社会福祉協議会
社会福祉法人小山町社会福祉協議会
社会福祉法人西伊豆町社会福祉協議会
社会福祉法人中央共同募金会
社会福祉法人かしま学園
社会福祉法人キングス・ガーデン埼玉
社会福祉法人光風会
社会福祉法人尚学学園
社会福祉法人阪神共同福祉会
社会福祉法人ユアアイ村
医療法人仁愛会水海道厚生病院

組合組織の皆様

茨城県生活協同組合連合会
いばらきコープ生活協同組合
生活協同組合バルシステム茨城
生活協同組合連合会グリーンコープ連合会
生活協同組合コープにいがた
常総生活協同組合
生活クラブ生活協同組合
東京都生活協同組合連合会
東都生活協同組合
阪神医療生活協同組合
中央労働金庫労働組合
中央ろうきん社会貢献基金
一般社団法人茨城県労働者福祉協議会
日本労働組合総連合会 茨城県連合会
ワーカーズコープちば

事業者の皆様

一般社団法人 茨城県経営者協会
MS&AD インシュアランス グループ
ホールディングス株式会社
株式会社あおば
アルルホームズ明るい株式会社
株式会社魚松
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
株式会社北関スクリーン
株式会社五光大井店
三桜工業株式会社
株式会社地雷源
セントケア茨城株式会社

株式会社ソノリテ
株式会社ダイゼン
つくばコミュニティ放送株式会社
株式会社ナブラ・ゼロ
株式会社阪急阪神百貨店
プリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社
水澤電機株式会社
株式会社ラッシュジャパン チャリティバンク事務局
株式会社リバティーフーズ
リコージャパン株式会社
有限会社エルバ
有限会社ナカ電設工業
ヤマヤ物産有限会社
GarageTakeuchi
飯塚建築設計事務所
市毛建築設計事務所
コーヒーファクトリー
里山ホテル ときわ路
食菜菜

その他

日本弁護士連合会
つくばね法律事務所
NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会
田中俊彦公認会計士事務所
石鎚本教大阪教会
浄土真宗本願寺派佐賀教区 神崎・三根
組合同仏教婦人会
宗教法人真如苑
日蓮宗愛知県三河宗務所 伝導教科センター
宗教法人徳恩寺
宗教法人白根福音教会

行政の皆様

内閣府
復興庁
茨城県
常総市
大泉町多文化共生コミュニティセンター
常総市教育委員会
茨城県教職員組合
独立行政法人国立病院機構災害医療センター
国立研究開発法人防災科学技術研究所
人と防災未来センター

教育機関の皆様

国立大学法人茨城大学
岩手県立大学
国土館大学
上智大学ボランティア・ビューロー
国立大学法人筑波大学
つくば国際大学
筑波学院大学
浜松学院大学 HGU 防災サークル
国立大学法人福島大学
茨城県立水海道第一高等学校
稲敷市立浮島小学校
つくばみらい市立小絹小学校 PTA

多くのメディアに発信いただきました

我々の活動を多くのメディアに発信いただきました。常総に関する報道が激減する中、引き続き連携して発信していきたいと思っております。

メディア名	掲載日	題名	ウェブで閲覧可能 (12月末時点)
産経新聞 静岡版	9月21日	新品タオル、提供呼びかけ 豪雨の被災地支援	○
茨城新聞	9月22日	「情報弱者」へ瓦版 常総、NPO 設立のセンター 連日発行、外国語版も	○
茨城新聞	9月22日	被災者支援へ募金 いばらき未来基金	○
毎日新聞	9月22日	鬼怒川決壊 外国人避難、言葉の壁 指示理解できず逃げ遅れ	○
毎日新聞	9月24日	復興センター：お役立ち情報「瓦版」を毎日発行 常総	
NPO PRESS	9月28日	現地の NPO が「たすけあいセンター」を設立 茨城県常総市の大規模水害	
毎日新聞 茨城版	10月3日	東日本大震災の支援者団体、避難者と関係作り 孤立化防止へ聞き取り調査	○
茨城新聞	10月5日	鬼怒川決壊 研究者、住民が意見交換 常総 復興学会招き座談会	○
いばキラ TV	10月8日	がんばっぺ常総 復興への道のり	○
東京新聞 茨城版	10月9日	「自宅避難者」救済の施策を「commons」横田代表に聞く	○
毎日新聞	10月12日	「外国人が物色」「不審者いる」 茨城・常総被災地、デマ拡散 偏見乗り越える動きも	○
東京新聞 茨城版	10月14日	「自宅避難者」ほっと笑み 名古屋の NPO 法人、市内で共同炊き出し	○
産経新聞 茨城版	10月20日	茨城・常総で送迎ボランティア 避難所からの通園・通学・通院、200人が利用	○
文化放送	11月8日	鎌田實×村上信夫『日曜はがんばらない』	○
朝日新聞 茨城版	11月8日	“助っ人”の極意を継承 地元NPO、支援団体に学ぶ講習会 鬼怒川決壊	
毎日新聞 茨城版	11月12日	支援 NPO、避難所改善を常総市に提案	○
日経ビジネス	11月17日	渡辺実のぶらり防災・危機管理 災害で戸惑う「移動生活者」をどう救うのか？ 大規模水害から2カ月の常総市を歩く(2)	○
TBS ニュースバード	11月19日	ニュースの視点	
茨城新聞	11月20日	被災者支援考える 23日、水戸で説明会	○
東京新聞 茨城版	11月23日	復興計画 方針提案へ ビジョン懇話会初会合	○
NHK 水戸放送局	11月23日	常総の被災者支援を考える	
読売新聞	11月27日	「常総災害FM」30日終了	
読売新聞	12月11日	被災地結ぶ 感謝のお返し…梅林学区自主防災連	
NHK 水戸放送局	12月14日	広島市の被災住民が常総に義援金	
読売新聞 茨城版	12月15日	広島から常総 復興エール	○
NHK 水戸放送局	12月16日	豪雨災害と暮らしを考える	
産経新聞 茨城版	12月17日	土砂被害の広島・安佐南区防災会が茨城の豪雨被災者に義援金	○
NHK 広島放送局	12月18日	土砂災害被災者が豪雨被災地へ	
BLOGOS	12月18日	「被災地への『善意』を適格に機能させる——」震災がつなぐ全国ネットワークが常総市で果たした役割	○
読売新聞 茨城版	12月20日	常陸人 水害被災者の生活支援 茨城 NPO センター・commons代表理事 横田 能洋さん	
朝日新聞 茨城版	12月21日	被災地の受験生、「無料塾」で応援 石岡の NPO	○
読売新聞 茨城版	12月23日	送迎ボランティアの講習会	○
茨城新聞	12月31日	災害時の連携を考える 鉾田で講演会 支援や協働事例紹介	
茨城新聞	1月10日	鬼怒川決壊 常総復興へ意見交換 市内外支援団体が初会合	○
茨城新聞	1月15日	伝える 常総発 作業の人手足りぬ 常総市水海道森下町、瀬谷哲彦さん(44)	○
NHK 首都圏 NEWS	1月24日	常総 復興計画で市民の集い	

※ 全て掲載できておりませんが、ご了承ください。

多くのご寄付、ありがとうございます

2015年12月31日までにご入金があったご寄付

合計金額：**20,510,811**円 のべ件数：**442**件（338名、104団体）

※ JUNTOS 募金のほか、コモンズへの直接寄付も含まれます。

※ 法人からの助成金は除いています。



鎌田 實さんからご寄付をいただきました。ありがとうございます。

「テレビの報道もほとんどなくなり、常総はもう大丈夫と思われるようですが、まだまだ被災者は大変な状況が続いています。ぜひ継続的なご支援をお願いします。」

鎌田 實 医師・作家

諏訪中央病院名誉院長、日本チェルノブイリ連帯基金理事長、日本・イラク・メディカルネット代表、東京医科歯科大学臨床教授、東海大学医学部非常勤教授

ご寄付いただいた方のメッセージ

「被災された皆様が、安心して普通に暮らせる日が、一日でも早く訪れる事を願っております。」

「マスコミの報道も少なく、現状はどうなっているのか気になりながらも「知る」事をせず、情けない思いです。ボランティアに行けず少しの募金ですみません。微力ながら自分のできる事を考えて、行動していこうとおもっています。また少しずつですが、募金もさせていただきますね。皆様の、一日、一刻も早い復興を願っています。」

「被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。コモンズの皆様を始めとする関係者の方々のこれまでの地道な活動が、今後の被災地の自立に活かされると信じています。いばらき未来基金があって、本当に良かったと思います。僅かですが、お役に立てただけと幸いです。」

「なかなか現地に行ってお手伝いすることもできないので、少しでも寄付させていただきます。横田さんやコモンズはたすけあいセンター「JUNTOS」の情報発信のシェアなどネットでできることのお手伝いはしたいと思います。」

「小さい金額ですが少しでも何かの役に立てば。後日ボラン

ご寄付とともに、多くの方々から温かいメッセージをいただきました。全てをご紹介しますが、以下をご覧ください。

ティアもさせていただきます。皆さんの生活が早く元に戻りますように。」

「ご尽力を重ねて深く敬意を表するとともに、被災されたみなさまが、一日も早く心身の平安を取り戻されるよう、お祈りし、当方も微力を尽くし続けることを約束申し上げます。」

「災害復興は長期の継続が必要かと思えます。少しでも役立てていただければ幸いです。頑張ってください！」

「まだまだ大変な状況だと知り、遠く離れた大阪からでも自分に出来ることを・・・と思いました。阪神淡路大震災の事を思い出します。1日でも早く、1人でも多くの方が復興されますように！！」

「東日本大震災の時は全国の皆さんからいろいろ助けてもらって本当に嬉しかったです。ありがとうございました。今回は恩返しのもりで少しではありますが役立ててください。よろしく願います。」

「広島の大震災の時にも皆さんに力をいただきました。まだまだ先は長いとは思いますが、みんなで乗り越えていきましょう！お体お大事にしてください。」

継続的に寄付を募集しています

常総市が真の意味で復興するためには、まだまだ多くの活動が必要です。必要とされる活動を継続するために、ぜひ引き続きご支援ください。また、お知り合いの方などにもご紹介ください。

インターネットによるオンライン寄付

インターネットで、クレジットカードやコンビニ決済などで、24時間ご寄付できます。「常総地域水害被災者支援活動」を選択してください。詳細はウェブサイトをご覧ください。

< <https://bokinchan2.com/ibaraki-mirai/theme1/bokin/page1.php> >

ゆうちょ銀行の口座へのお振込み

番号：00110-3-263714

名称：NPOセンター・コモンズいばらき未来基金

※ 「JUNTOS 募金」とご指定ください。郵便振替の払込取扱票の通信欄に、「JUNTOS 募金」とご記入ください。

銀行口座へのお振込み

常陽銀行 本店営業部 普通 3637778

「認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ いばらき未来基金」

※ ただし銀行へのお振込の場合は、ご本人様確認ができませんので、eメールまたはお電話で、お名前、ご住所をお知らせください。

☎：029-300-4321 eメール：office@ibaraki-mirai.org